Tamanga Ran! Vol.2　2015.10.23

青年海外協力隊　Malawi 派遣　本田　藍

★　みなさんこんにちは。だんだん涼しくなってきて体調など崩していませんか？ニュースレター第１号を送らせていただき、お返事いただいた方々、ありがとうございました。自分の記録の意味も込めてスタートさせたものでしたが、多くの方々からお返事をいただき、改めて日本にたくさんの友人、私を応援してくださっている方々がいることに気付き、私は恵まれているなぁととても励まされ、嬉しくなりました！継続して物事を続けていくのが苦手な私なので、継続的に２年間ニュースレターを発行し続けていくことができるのか(目標は毎月発行することです！笑)、自分自身少し不安な部分もありますが、皆様からのコメントなどを励みに、３日坊主ならぬ３カ月坊主にならないように頑張りたいと思います！

↑＊家の隣のナーサリースクールの子供達。毎日学校から帰ると、抱き着いてきて抱っこをせがまれます。とってもかわいいです♪そのあとしばらくドアを叩かれ、たまにうるさーい!!と思いますが、笑顔で対応します（笑）

＊Kamuzu primary school の子供たちと休み時間に

マラウイに来て約３か月半、たまに日本の友人と電話やメールをするのですが、あぁ日本は都会だなぁ、進んでるなぁと、よく思うようになりました。自分が生活していたのは、遠い昔のようです。まだ３か月しか経っていないのに。相変わらず停電、断水続きの毎日に、電気のあるうちに料理しておこうとか、水の出るうちの洗濯しておこうとか、考えて生活するのが当たり前になりました。赴任当初、暗いところが苦手な私は、夜停電になると気分まで暗くなり、一人寂しくなって落ち込むこともしばしばありましたが、最近はパソコンで映画やドラマを見ながらキャンドルナイトを楽しめるようになりました＾＾人は適応するのだな～とつくづく実感しています◎（好きかどうかはまた別です(＾＾;)

◎らんのつぶやき

先日同僚の先生の家に招待してもらい、先生の友達の大工さんもきて一緒に話をしていました。その方は第二次世界大戦の影響か、日本はドイツと近い、ヨーロッパにある国だと思っていたらしく、先生が一生懸命日本はアジアにある、遠い国だということを説明してくれました。その後、日本の大学生の多くはほぼストレートで 20 代前半学士号を取り終えるという話になり、「マラウイ人は頭が悪いと思うか」　と聞かれました。マラウイでは大学に行くためのお金を確保するのが難しく、一度働いてお金を溜めてから行く人が多く、それでも大学まで卒業できるのはほんの一握りの人たちです。難しい質問だなと思いました。私は、「マラウィアンは情報を知らないだけじゃないか」と答えました。根本的な能力に大きな差はないのではないか、と。日本ではスマホ１つで欲しい情報が多すぎるくらいに手に入り、それを客観的に取捨選択する術も多くの人が持っている。一方でマラウイでは、田舎の農家に生まれれば、それが自分の生きるすべての世界となる。また、日本は少子高齢化が急速に進み数年前には大学全入時代と言われたが、マラウイは急激な人口爆発で、子もの数も爆発的に増えている、この差はどうとらえればいいんだろうとも思いました。皆さんならなんと答えますか？

◎今月の活動

＊3 年生の教室の様子、1 クラスに約 130 人の生徒が床に座って授業を受けています。

小学校は 9 月 7 日から新学年がスタートし、毎日配属先である TDC（Teacher's Development center）併設の Kamuzu 小学校に通い、まずは一緒に働く先生たちとの関係作りから、と授業を見学させてもらったり、時間の空いている先生たちとおしゃべりしたりしています。この学校は Mchinji 県内で一番大きな学校で、生徒数は 3500 人を 1 クラスの生徒数は 100 人を優に超えています。

て、校舎の数も足りず、2 クラス合同で授業が行われることも珍しくありません。（もちろん先生は 1 人！）8 年生の教室にしか机と椅子がないので、他の学年の生徒たちは全員コンクリートの床に座って授業を受けています。私も生徒の視点になってみようと一緒に座って授業を受けましたが、1 時間でお尻が痛くなり、授業に集中できなくなりました（笑）教室には窓ガラスがないため、風が吹くと教室中生徒も砂まみれになります。

マラウイの小学校には学期末に進級試験があり、不合格になった生徒は同じ学年をリピートしなければなりません。これにより、例えば 8 年生の教室内にも 10 - 18 歳の年齢の子供たちが混ざって勉強しています。合格率の低い学年では、約 50%の子どもがリピートしていたり、同じ学年を 2 回リピートしている子どもがいたりする現状もあり、これは何とかならないかなぁと思っています。

またマラウイでは、生活環境や学校システムが整っていないために日本ではありえないことがよく起こります。例えば遅刻。先生も生徒もよく遅刻してきます。「朝、自分の子どもが体調不良で、学校まで送ってきたから遅刻した」「給与支払い日で、銀行に行ってきたから遅刻した」「前の授業がいつ終わるかわからなかったから準備していなかった」「家の手伝いをしていた」「寝坊した」「時計がないから」…。”Laziness”という一言で片づけてしまえばそれまでなのかもしれませんが、その背景には、途上国で病気にかかることの深刻さ、貧しさ、子どもも水汲みや掃除洗濯、家の手伝いをしないと生活が回らない現状等、様々な背景がある気がします。（もちろん、日本人の勤勉さと比較したら比べ物にならないくらいの怠惰もあります！笑）

＊スポーツクラブの前に子供たちとストレッチをしたり、ゴルフボールで遊んだり、写真を撮ったりして遊びました。

要請内容である表現芸術家科目の指導以前に、漠然とではありますが、もっと根本的な何か、こういった状況の中でも改善できる点を見つけ、取り組んでいければいいなと考えています。

この他には、放課後のスポーツクラブにたまに顔を出して、審判をしたり、一緒にサッカーやネットボール（バスケに似た、アフリカで人気のスポーツ）をしたりしています。クラブといえど用意されたプログラム等はなく、ただ集まって試合をするだけ、という状況です。先日、練習を取り入れてみようと女の子たちとパスの練習をしてみましたが、約 15 名の生徒に対しボールは 1 つ→なかなかボールに触れない→そもそも練習をしたことがないので、うまくできない→つまらない→早くゲームをしよう、となってしまい、10 分も持ちませんでした。この子たちに練習はいらない、楽しくできればそれでいいのかな、とも思いましたが、諦めず少しずつ練習などを取り入れて、子どもたちが練習してレベルが上がっていくことの楽しさ、面白さを少しでも理解してくれたらいいなと考えています！